

ねん がつ よつ か  
2022年9月4日

ねんかんたい しゅじつ  
年間第23主日

きくち いさおだい しきょう  
菊地 功大司教 メッセージ

ルカ福音は、イエスの弟子となる条件として、「自分の十字架を背負ってついてくる者」であれと記します。同時に、「父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎む」ことを不可欠であるとも記します。一体これは何を意味しているのでしょうか。

一つのヒントは、パウロのフィレモンへの手紙に記されています。この短い書簡で、パウロはコロサイの裕福な信徒であるフィレモンに、彼の元から逃げてきて、その後洗礼を受けた奴隷であったオネシモを、一人のキリスト者としての兄弟として送り返すことを記しています。当時の常識の枠組みの中で、自分の奴隷であった人物を兄弟として受け入れるフィレモンの行動は、他の人たちにとってこの世の常識をはるかに超える大きな意味を持つ愛のあかしの行動となったことでしょう。

パウロは第一コリントの1章17節で十字架の意味を、神ご自身によるすべてを賭した愛のあかしの目に見える行いそのものであると記します。この世の知恵に頼って愛をあかしするのではなく、全身全霊を賭して神の愛をあかしたイエス。それこそが十字架の持つ意味であることをパウロは強調します。

したがって、このルカ福音における十字架も、単に苦行をしろとっているものではありません。この世で生きていくために大切だと思っていること、すなわち人間の知恵が作り上げた常識に捕らわれるのではなく、そこから離れ、自らの全身全霊を賭して、神の愛をあかしするための行動にできるようにと、イエスは弟子に求めておられます。

その一つの道として、神がわたしたち人類に管理を任されているすべての被造物を守る行動が、過去の強欲な搾取に別れを告げて、神の愛に生きる具体的なあかしになるとして、教皇様は9月1日を被造物を大切に作る世界祈願日と定められました。日本の教会では、9月の最初の主日に祝います。教皇フランシスコは、回勅「ラウダート・シ」を発表

され、<sup>きょうかい</sup>教会が<sup>かだい しんし とく</sup>エコロジーの課題に<sup>たいせつ</sup>真摯に取り組むことの<sup>きょうちよう</sup>大切さを<sup>きょうちよう</sup>強調されました。

<sup>きょうこうさま きょうちよう</sup>教皇様が<sup>きょうちよう</sup>強調される<sup>はいりょ</sup>エコロジーへの<sup>たん きこうへんどう たいしよ</sup>配慮とは、<sup>おんだん か</sup>単に<sup>おんだん か</sup>気候変動に対処しようとか<sup>おんだん か</sup>温暖化を<sup>く と</sup>食い止めようとか<sup>たんどく かだい</sup>いう<sup>たんどく かだい</sup>単独の課題にと<sup>たんどく かだい</sup>どまっては<sup>たんどく かだい</sup>いません。「<sup>ふくだい</sup>ラウダート・シ」の<sup>ふくだい</sup>副題として<sup>しめ</sup>示されているように、<sup>かだい</sup>課題は「<sup>く</sup>ともに<sup>いえ</sup>暮らす<sup>たいせつ</sup>家を<sup>たいせつ</sup>大切に」<sup>きゅうきよくてき</sup>することであり、<sup>きゅうきよくてき</sup>究極的には、「<sup>せかい</sup>この<sup>せかい</sup>世界で<sup>なん</sup>わたしたちは<sup>なん</sup>何のために<sup>い</sup>生きるのか、<sup>い</sup>わたしたちは<sup>い</sup>なぜここに<sup>い</sup>いるのか、<sup>い</sup>わたしたちの<sup>はたら</sup>働きと<sup>とく</sup>あらゆる<sup>とく</sup>取り組みの<sup>もくひよう</sup>目標はい<sup>もくひよう</sup>かなるものか、<sup>もくひよう</sup>わたしたちは<sup>もくひよう</sup>地球から<sup>ちきゅう</sup>何を<sup>ちきゅう</sup>望まれているのか、<sup>ちきゅう</sup>といった<sup>ちきゅう</sup>問い」(160)に<sup>ちきゅう</sup>真摯に<sup>ちきゅう</sup>向き合い、<sup>ちきゅう</sup>社会<sup>ちきゅう</sup>全体の<sup>ちきゅう</sup>進む<sup>ちきゅう</sup>道<sup>ちきゅう</sup>を見<sup>ちきゅう</sup>つめ<sup>ちきゅう</sup>直す<sup>ちきゅう</sup>回<sup>ちきゅう</sup>心が<sup>ちきゅう</sup>求め<sup>ちきゅう</sup>られています。

<sup>きょうかい</sup>教会は、<sup>しゆくじつ</sup>アシジの<sup>しゆくじつ</sup>フランシスコの<sup>がつよつ か</sup>祝日である<sup>がつよつ か</sup>10月4日<sup>がつよつ か</sup>までを<sup>ひぞうぶつ きせつ</sup>「<sup>ひぞうぶつ きせつ</sup>被造物の<sup>ひぞうぶつ きせつ</sup>季節」として<sup>ひぞうぶつ きせつ</sup>おり、<sup>にほん きょうかい</sup>日本の<sup>にほん きょうかい</sup>教会も<sup>きかん</sup>この<sup>きかん</sup>期間に<sup>さまざま</sup>様々な<sup>けいはつかつどう おこな</sup>啓発活動<sup>おこな</sup>を行います。<sup>きょうこうさま さだ</sup>教皇様が<sup>きょうこうさま さだ</sup>定めた<sup>ことし</sup>今年<sup>ことし</sup>の<sup>ことし</sup>テーマは、<sup>しへん へん</sup>詩篇<sup>しへん へん</sup>19編<sup>と</sup>から<sup>と</sup>取られた<sup>ひぞうぶつ こえ</sup>「<sup>ひぞうぶつ こえ</sup>被造物の<sup>みみ</sup>声に<sup>かたむ</sup>耳を<sup>かたむ</sup>傾ける」と<sup>かたむ</sup>され、<sup>はつびよう</sup>メッセージが<sup>はつびよう</sup>発表<sup>はつびよう</sup>されています。

その<sup>なか</sup>中で<sup>なか</sup>教皇<sup>きょうこうさま</sup>様は、「<sup>ひぞうぶつ あ</sup>被造物<sup>あ</sup>が<sup>にが</sup>上げる<sup>さげ</sup>苦い<sup>さげ</sup>叫びは、<sup>はは</sup>母<sup>はは</sup>なる<sup>だい</sup>大地<sup>だい</sup>の<sup>さげ</sup>叫びであり、<sup>せい</sup>生態系<sup>せい</sup>から<sup>せい</sup>消え<sup>せい</sup>ゆく<sup>せい</sup>多くの<sup>せい</sup>生物<sup>せい</sup>の<sup>せい</sup>叫び、<sup>せい</sup>また、<sup>せい</sup>気候<sup>せい</sup>危機<sup>せい</sup>の<sup>せい</sup>影響<sup>せい</sup>を<sup>せい</sup>最も<sup>せい</sup>強く<sup>せい</sup>受<sup>せい</sup>けている<sup>せい</sup>貧<sup>せい</sup>しい<sup>せい</sup>人々<sup>せい</sup>の<sup>せい</sup>叫び、<sup>せい</sup>先祖<sup>せい</sup>からの<sup>せい</sup>土地<sup>せい</sup>を<sup>せい</sup>経済<sup>せい</sup>的<sup>せい</sup>利益<sup>せい</sup>のために<sup>せい</sup>搾<sup>せい</sup>取<sup>せい</sup>される<sup>せい</sup>先<sup>せい</sup>住民<sup>せい</sup>たちの<sup>せい</sup>叫び、<sup>せい</sup>そして<sup>せい</sup>地球<sup>せい</sup>のエコ<sup>せい</sup>システム<sup>せい</sup>の<sup>せい</sup>崩<sup>せい</sup>壊<sup>せい</sup>を<sup>せい</sup>食い<sup>せい</sup>止<sup>せい</sup>める<sup>せい</sup>ために<sup>せい</sup>可能<sup>せい</sup>な<sup>せい</sup>限り<sup>せい</sup>の<sup>せい</sup>努力<sup>せい</sup>を<sup>せい</sup>望<sup>せい</sup>む<sup>せい</sup>若<sup>せい</sup>者<sup>せい</sup>たちの<sup>せい</sup>叫び<sup>せい</sup>でもある」と<sup>せい</sup>記<sup>せい</sup>し、<sup>せい</sup>その<sup>せい</sup>ため<sup>せい</sup>には<sup>せい</sup>個人<sup>せい</sup>的<sup>せい</sup>な<sup>せい</sup>回<sup>せい</sup>心<sup>せい</sup>にと<sup>せい</sup>ど<sup>せい</sup>ま<sup>せい</sup>らず、<sup>せい</sup>共<sup>せい</sup>同<sup>せい</sup>体<sup>せい</sup>の<sup>せい</sup>回<sup>せい</sup>心<sup>せい</sup>が<sup>せい</sup>必要<sup>せい</sup>だと<sup>せい</sup>指<sup>せい</sup>摘<sup>せい</sup>されています。

<sup>かみ</sup>神<sup>あひ</sup>の<sup>あひ</sup>愛<sup>あひ</sup>をあ<sup>あひ</sup>か<sup>あひ</sup>し<sup>あひ</sup>する<sup>あひ</sup>ために、<sup>あひ</sup>いま<sup>あひ</sup>ど<sup>あひ</sup>の<sup>あひ</sup>よう<sup>あひ</sup>な<sup>あひ</sup>十<sup>あひ</sup>字<sup>あひ</sup>架<sup>あひ</sup>を<sup>あひ</sup>背<sup>あひ</sup>負<sup>あひ</sup>って<sup>あひ</sup>歩<sup>あひ</sup>もう<sup>あひ</sup>として<sup>あひ</sup>いる<sup>あひ</sup>で<sup>あひ</sup>しよ<sup>あひ</sup>う<sup>あひ</sup>か。